



岸本周平
Kishimoto Shuhei
中央大学客員教授

ドブ板の日々は続く

<http://www.shuhei-k.jp>

<http://blog.goo.ne.jp/shu0712>

先月号では、選挙による政権交代という「歴史的な転換点」で政治家を志すことができるモチベーションについて書きました。しかし、志の高さとは別に、毎日の活動は地道なドブ板選挙にならざるを得ません。逆に言いますと、志を高く持っていないと、日々のドブ板活動を胸を張ってできないのかもしれない。

365日、休みなしの生活です。早朝の街頭演説で始まり、夜のミニ集会で終わる一日を、今日もまた、明日もまた、と積み重ねていくしか当選の可能性が見えてきません。一度落選経験のある衆議院議員の先輩は「落選中は、絶望と楽観の連続する日々である。」と教えてくれました。確かに、2年間も浪人生活を支えているのは、根拠のない楽観主義です。そして、時として、組織もできず、やらなければいけない作業リストが全く埋まっていないことに絶望感を持つこともあります。そんな時、応援して下さる方々の存在そのものが心のよりどころです。

ところが、毎日の生活の中で、支援をして下さる方々への感謝の念が薄れるときもありますから、人間は困ったものです。応援してもらっていることに慣れるということなのでしょうね。ですから、「絶望」の日々も必要で、その時に改めて感謝の気持ちを再認識することができます。

落選中の野党の候補者は、街中にポスターを貼ることもままなりません。今まで、コツコツとお願いをして、1枚1枚増やしてきました。これも、候補者本人がやっている間はかどりません。応援して下さる方々がポスターを持ってお願いに戻ってくれて、はじめて目に見えて増えてくるのが実情です。

この写真のように、交通量の多い四つ角に2枚も政党掲示板を貼って下さる支援者は本当にありがたい存在です。和歌山市内でも、これだけ目立つのは1軒だけです。このように、お

一人お一人の「助けてあげるよ、応援してあげるよ!」というお気持ちが候補者のドブ板活動を支えてくれます。そして、地道にドブ板活動をすれば、支援者の輪も広がっていくのです。2年間の活動でわかったことは、「何より、政治は感動!」だということです。赤の他人を感動させることができないと政治家になることはできません。

参議院で与野党が逆転し、国会そのものが面白くなってきました。テレビのニュースが有権者の関心を引き付けています。しかし、単なるスキャンダル合戦や、枝葉の問題で揚げ足取りばかりしては、国民の心は離れます。現役の国会議員諸先



輩方には、ぜひ、国会論戦で有権者に感動を与えて下さるようお願いいたします。私は、選挙区の街中で大勢の和歌山市民を感動させるような活動をしていきます。これまで同様、ある時はドブ板を踏みながら、ある時は自転車にのぼり旗を立てて走りながら、またある時にはスーパーや駅前の街頭演説で魂の叫びを訴えながら、感動の輪を広げていきます。決戦の日は近づいています。

